

水戸芸術館 ACM 劇場プロデュース

斜交

しゃっこう

昭和40年のクロスロード

事件調書

2017年11月23日～26日 / 水戸芸術館 ACM 劇場

2017年12月8日～10日 / 東京・草月ホール

ご挨拶

水戸芸術館演劇部門
芸術監督 井上桂



「なんて真っ直ぐで魅力的な人なんだろう」

平塚八兵衛さんのお仕事を読み進めるほど、感じるのそれはばかりでした。一徹さのあまり周囲といろんな摩擦が生じるものの、誰もがその実直さに引き込まれていきます。そして平塚さんが事件で出会ってきた人々を紡いでみたら、多くの風景が見えてきました。その舞台化を演出の高橋正徳さんに相談すると、様々なアイデアを頂戴し、作家の古川健さんはじめ、実力派の素晴らしい俳優・スタッフの皆様にご参集いただくことが出来ました。

また企画にあたり、茨城県内の様々な皆様のご協力を頂戴しました。舞台化に快くご許可くださいましたご子息平塚進様はじめ、茨城県警や茨城県警友会の皆様、そして県警OBの菊池興安先生には、当時の雰囲気や貴重で愉快なエピソードを教えてくださいました。ここには書ききれませんが、多くの方々の惜しみないご協力に、平塚さんの実直さを育んだ茨城ならではのエネルギーが今も滔々と流れている思いがしました。改めてお礼申し上げます。

この作品は『吉展ちゃん誘拐事件』に想を得て製作されており、この作品中での出来事は、当時の再現ではなく作家と企画側の創作による部分があります。予めご理解いただきますようお願いいたします。

最後までごゆっくりお楽しみください。

作 古川健



一九七八年生まれの私にとって、この物語のモチーフである『吉展ちゃん誘拐事件』は名前しか知らない事件でした。今回初めて、事件の詳細を知ったのです。

抵抗できない幼児を標的とした犯罪を憎まずにはいられません。まして、私は吉展ちゃんと同じ年齢の娘を持つ身です。犯人に対して憤りを禁じ得ません。その犯人をどう描くか。今回その点には苦勞しました。どうしても彼に対する悪感情が先に立つてしまうのです。

しかし、「許さないこと」と「理解しないこと」は別の事であると考えようになりました。許されない罪を犯した人間を、理解することなく断罪するのは思考停止です。憎悪ではなく知性によつて罪を犯した人間を読み解こうと努めること。その姿勢こそ、人間社会にとつて重要であるように思います。この作品は私にとつて、そのことを気付かせてくれた大事な作品です。

本日はご来場ありがとうございます。
最後までごゆっくりお楽しみください。



劇団コロレトケキ所属、第二回公演以降、劇団コロレトケキの全作品に俳優として参加。二〇〇九年から脚色を担当する。外部作品の執筆脚色やTBS「ゴロウ・デラックス」(コーナー内の脚本担当・出演)など映像作品も手掛ける。十四年、第二十一回読売演劇賞選定委員特別賞(治天ノ君)、第二十五回テアトロ新人戯曲賞、第四十九回伊國屋演劇賞団体賞など多数受賞。東京出身。

演出 高橋正徳



東京都荒川区で育った私は『吉展ちゃん誘拐事件』という言葉に幼い頃折耳にした。夕方のチャイムが鳴つても遊びに夢中で家に帰らず、母親にしかられた時、「人さらいに遭うぞ」という話の流れだったと思う。だが当時は自分が生まれるよりはるか前に起こった身代金誘拐事件の詳細など知る由もなく、ただただ恐ろしい想像を膨らませただけだった。

今回演出するにあたり、台東区や荒川区の事件現場だけでなくこの芝居の犯人のモデルである小原保が育った福島県石川郡にも足を運んだ。郡山から水郡線で一時間程揺られ磐城石川駅で下車し、そこから川沿いに十キロほど登って行った場所が、小原が生まれ育った石川町母畑字法昌段だ。現在は道路や脇道もアスファルトで舗装され歩きやすくなっているがそれでも二時間半以上かかった。半世紀以上前は当然舗装されているはずもなく、そこに住む人々はバスや時にはぬかるみで膝まで漬かる道を数時間かけ山を下り町に出て、また数時間かけて集落まで戻った。谷間の集落では猫の額程の土地を拓き畑や田を作ったという。駅に戻ろうとする頃、日が山の稜線に消えていった。街灯がほとんど無い暗闇の道を歩きながら空を見上げると月が出ていなかった空には満天の星があった。貧しく体の不自由だった小原は子供時代に空を見上げる事があつたのだろうか。幼き日の小原の目には何が映っていたのか。その問を持ち帰り稽古場で時間を過ごした。

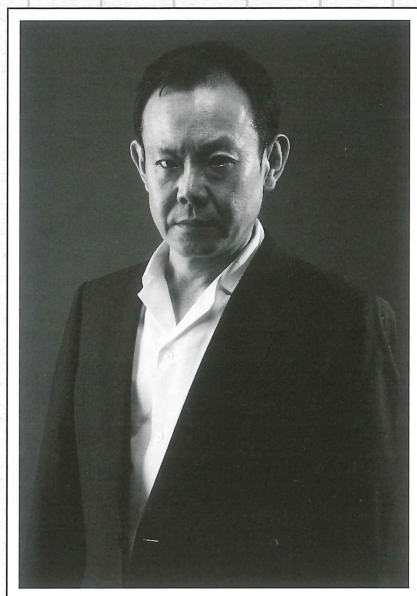
本日はご来場ありがとうございます。
最後までお楽しみ頂ければ幸いです。



二〇〇〇年文学座附属演劇研究所四十期生として入所。二〇〇五年文学座座員となり、現在にいたる。木村光一、西川信廣、鶴山仁、高瀬久男などの演出助手を務め、〇四年文学座アトリエの会「TERRA NOVA テラノヴァ」で文学座初演出。以降、川村毅、鐘下辰男、佃典彦、東憲司など多くの現代作家の新作を演出。商業演劇から小劇場まで精力的に活動する傍ら、地方劇団・公共団体・学校などでの演劇ワークショップの講師としても活躍中。二〇一一年文化庁新進芸術家海外研修制度により一年間イタリア・ローマに留学。東京出身。

斜交登場人物

※あくまで、本作品は「吉展ちゃん誘拐事件」をモチーフにしているため、作品中の人物の名前等はフィクションです。

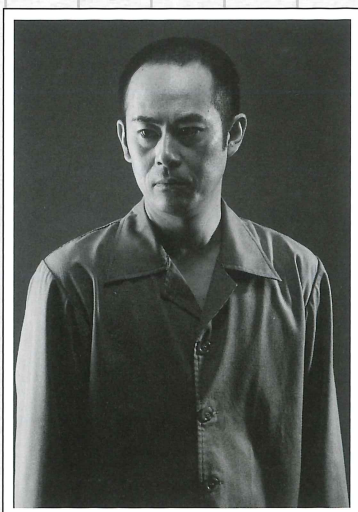


こんどう よしまさ

近藤芳正

「三塚九兵衛（腕利き刑事）」

デビューは一九七六年の『中学生日記』（NHK総合）。高校卒業後、上京し演劇活動に入る。東京サンシャインボーイズに欠かれない客演俳優として脚光を浴び、テレビ、映画、舞台で幅広く活躍。二〇〇一年より自身がプロデュースする劇団♪ダンダンブエノの主宰を務める。あらゆる役に深く踏み込む演技力と表現力に定評があり、舞台・映像とも欠かさない存在の一人。〇九年からはダンダンブエノから派生したソロ活動として「バンダ・ラ・コンチャン」を始動。劇作家・古川健作品への出演は二回目であり、その一回目は「バンダ・ラ・コンチャン」との共同企画でもある。プロデューサーとしても後進の育成も視野に入れた活動をしている。

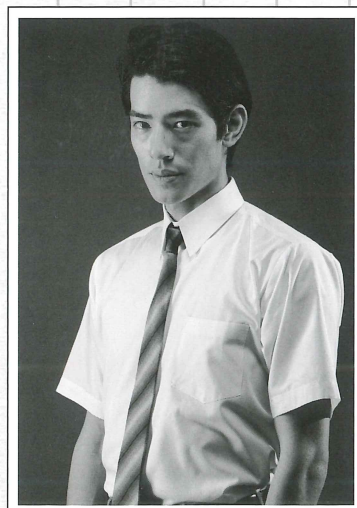


つくば りゅういち

筑波竜一

「木原守（被疑者）」

茨城県土浦市出身。流山児★事務所にて流山児祥に師事。近年急成長を遂げ注目を集める「温泉ドラゴン」を二〇一〇年に旗揚げ、創立メンバーの一人として全作品に出演している。旗揚げ公演『escape』では演出も兼ねた。十五年『birth』韓国三都市ツアーを敢行。ツアー先の密陽国際演劇祭で戯曲賞を受賞。劇団とともに今劇場界で注目を集めている若手の一人である。

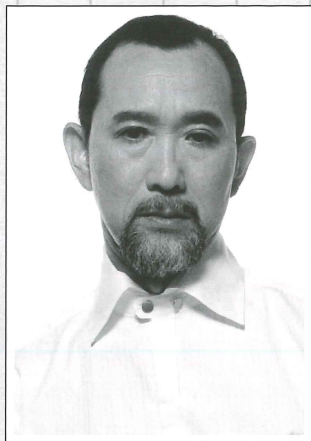


なかじま あゆむ

中島歩

「石橋豊治（九兵衛の相棒）」

モデルとして活動したのち、二〇一三年美輪明宏演出の『黒蜥蜴』のオーディションで二百名の中から雨宮潤一役を勝ち取り、舞台上に鮮烈にデビュー。四年には連続テレビ小説『花子とアン』で仲間由紀恵演じる蓮子の駆け落ち相手役で一躍脚光を浴びる。映画でも十五年『グッド・ストライプス』で菊池亜希子とW主演を果たし、TAMA映画賞最優秀新進男優賞を獲得するなど、各ジャンルで目覚ましい活躍を見せる若手の注目株の一人。今回の演出の高橋正徳とは、朗読劇『春のめざめ』以来二度目のタッグとなる。



「榎田功（刑事部長）」

福士 恵一
ふくし けいじ

寺山修司率いる「天井棧敷」出身。解散まで主要メンバーとして活躍。その高い身体性を活かしたキャラクターが持ち味で、随所に印象に残るシーンを作ってきた。解散後も舞台を中心に活動。二〇〇五年には、文化庁芸術家在外派遣研修員として「天井棧敷」とも関係の深いフランスで研修を重ねた。演出の高橋とは本年三月の『ザ・ダーク』に続いて二度目のタッグとなる。

らおりてこい』（〇六年／演出・黒岩亮）
以上青年座、『お気に召すまま』（〇八年／演出・伊藤大）、『天保一二年のシェイクスピア』（〇五年／演出・蜷川幸雄）
演出『ブッダ』（九十八年／演出・栗山民也）ほか。

桐朋学園短期大学演劇科卒業後、一九七六年劇団青年座に入団。身長一四五センチのキャラクターを活かし、舞台・映像と活躍している。主な舞台：『フォーカード』（十六年／演出・宮田慶子）、『夜明けに消えた』（十三年／演出・須藤黄英）、『切り子たちの秋』（十一年／演出・黒岩亮）、『第三の証言』（〇九年／演出・壇臣幸）、『ブンナよ、木からおりてこい』（〇六年／演出・黒岩亮）
以上青年座、『お気に召すまま』（〇八年／演出・伊藤大）、『天保一二年のシェイクスピア』（〇五年／演出・蜷川幸雄）
演出『ブッダ』（九十八年／演出・栗山民也）ほか。

「木原トミ（木原の母）」

五味 多恵子
ごみ たえこ



文学座所属。二〇〇二年『ルーシー26』で初舞台を踏む。舞台を中心に活動を続け、文学座公演のみならず、小劇場でも多くの演出家の話題作に出演している。更に近年では老舗劇団の同世代女優七人が集う演劇ユニット「On7」を立ち上げ、精力的に演劇活動を重ねている。ラジオドラマや声優としても活動の場を広げ、多くの持ち役がある。

渋谷 はるか
しぶや はるか

「成島君子（木原の愛人）」



戦後最大の誘拐事件

科交

号外

水戸芸術館
ACM 劇場
プロデュース公演

水戸芸術館 ACM 劇場
草月ホール

吉展ちゃん誘拐事件とは

昭和三十八年三月三十一日に発生した営利目的の誘拐事件。身代金の受け渡しが行われたが、犯人を取り逃がしてしまい、警視庁は公開捜査に切り替え、メディアを通じて情報提供を呼び掛けたが犯人は捕まらなかった。二年後、迷宮入り寸前と思われる中、警視庁は新たに少数精鋭主義、科学捜査重視のチームを編成。これに平塚八兵衛を長とする専任班も加わった。この誘拐事件で取り調べるのは人権侵害であるとの訴えから十日間だけ聴取が許された。期限終了間際、平塚は小原のアリバイを崩し、小原は自供、逮捕された。吉展ちゃんは自供通り遺体となって発見され、小原は後に死刑となった。

本公演の物語は、平塚と小原の最後の取り調べをモチーフに、その時代を生き抜いた男たちの戦いを描くものです。

事件年表 (史実に基づく)

昭和38年

- 3月31日 村越吉展ちゃん(当時4歳)が行方不明に。
- 4月2日 身代金50万円を要求する電話が入る。
- 4月7日 電話で身代金の受け渡し指示。母親が受け渡しを行うが、身代金を取られたうえ、犯人を取り逃す。以降犯人からの連絡は途切れる。
- 4月19日 公開捜査に切り替え。

- 5月20日 小原保が脅迫電話に声が似ているとの通報より、容疑者がある。別件で勾留された小原に1回目の取り調べが行われる。

- 12月15日 小原、別件で逮捕される。2回目の取り調べを行うが、事件発生時に福島にいたというアリバイを崩せず。

昭和39年

- 2月3日 4人の専任捜査員を残して、捜査本部は解散。

昭和40年

- 5月12日 警視庁捜査一課の平塚八兵衛に捜査参加要請。
- 5月14日 平塚自身の手で調査を再開。
- 6月23日 平塚、小原の最後の10日間の取り調べを開始。
- 7月4日 小原、営利誘拐・恐喝罪で逮捕。
- 7月5日 未明、吉展ちゃんの遺体が自供通り発見される。
- 10月20日 初公判

昭和42年

- 3月17日 判決公判。死刑判決。
- 11月29日 控訴棄却。死刑確定。

昭和46年

- 12月23日 宮城刑務所にて死刑執行。小原保、享年38歳。刑務所より平塚へ電話で伝言「真人間になって死んでいきます」。

昭和50年

- 平塚、「三億円事件」を最後に警視庁退職。後に小原の墓を墓参。

※あくまで、本作品はこの事件をモチーフにしているため、作品中の人物の名前等はフィクションです。

八兵衛さんを訪ねて

大きな後姿だった父、平塚八兵衛

医療法人青洲会 理事長

平塚進
(八兵衛氏の息子)

父のこととなると、すごく自分を可愛がってくれた、それが一番に思い出されます。私が小学校の頃の昭和二十四年当時、誰もが布のカバンやズックのところで自分だけ革のランドセルに革靴を買い与えてくれ、学校は目立っていいじめられてしまうので、何とも言えない思いがしました。他にも子どもには不相应な高価なものをたくさん買ってくれたものです。

大きな事件ともなると、新聞記者が家の前で父を待つようになったり、帰ってきても父は食事が終わるやいなや捜査資料を読み込み、丁寧な文字でメモを取り思案にふけたりしていました。夢中になっっている後姿を見て、刑事は父にピッタリな仕事だなどと思えました。時には上司とぶつかった「正しいことは正しい、つて言わなきゃいけない時があるんだ」と母と話していたこ

平塚八兵衛さんの思い出

元茨城県警 菊池興安

彼はさらに高名となり、伝説の刑事となっていた。

昭和五十一年頃、私が笠間警察署に勤務しているとき、官舎の近くのアパートで殺人事件があり、退職後の平塚八兵衛氏がマスコミ関係者と取材に来たことがある。門の前には私の妻は平塚氏に質問されたが、すでに日数が経っていたので、妻が「もっと早く来ればよかったのに」と言うのと、彼は「奥さんが殺されたときはすぐ来るから」と言い、お互いに大笑いしたと言います。初対面の人にもそのような冗談が通じる人柄だったようで、それが聞込みや取調べにも役立っていたのかもしれない。



平塚八兵衛氏 ©朝日新聞社

スタッフ

作	古川 健	制作協力	ミーアンドハーコーポレーション
演出	高橋正徳	制作助手	山本涼子
美術	乗峯雅寛	広報協力	吉田プロモーション
照明	沢田祐二	票券協力	サンライズプロモーション東京
音響	原島正治	東京公演	草月ホール 諸坂正秀
衣装	宮本宣子	稽古場	スタジオアーティ 我妻義一
映像	浦島 啓		
アクション	渥美 博	企画制作	水戸芸術館 ACM 劇場
			芸術監督 井上 桂
舞台監督	増田裕幸		プロデューサー 櫻井琢郎
舞台監督助手	松井美保		制作スタッフ 菊池広子、本間康太郎、宮本晶子、 比嘉まどか、仲田栞里
演出助手	石田恭子		舞台スタッフ 水戸芸術館舞台技術係
照明オペレーター	阪口美和		
照明スタッフ	高橋明子、中島俊嗣、加藤希望	主催	公益財団法人水戸市芸術振興財団
音響オペレーター	木元静香	助成	平成 29 年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業 (水戸公演)
衣装アシスタント	白畑しげみ		
衣裳スタッフ	沼田千穂、加藤千晶	協力	ケイダッシュ、テンカラット、エビス大黒舎、 温泉ドラゴン、青年座、文学座、トム・プロジェクト、 劇団チョコレートケーキ、長谷川事務所、 沢田オフィス、宮本宣子ワークショップ、 舞台音響・囃組、コロレ、オフィス・チームハンディ、 ステージ・ライティング・スタッフ、 Graphic design AQ、NOS creative、バベル、
映像オペレーター	堀田 創		
演出部	江頭一馬、平島悠三		
		(順不同・敬称略)	
方言指導	青年劇場		
プロンプター	高橋美帆		
			平塚 進 (医療法人・社会福祉法人 青洲会)、 菊池興安、尾上そら、徳永京子、茨城県警友会連合会、 茨城新聞、知道会、水戸公衆放送、
大道具	東宝舞台		
小道具	高津映画装飾		
運搬	マイド		
			お写真を提供してくださった皆様
宣伝デザイン	BOUVE DESIGN STUDIO		
宣伝写真	大村悠一郎		
WEB デザイン	平野敏樹、笹原宏之		
トレーラー製作	中嶋将人		
稽古場撮影・動画製作	サトウマコト		